

7月21日開幕

ところで、遺跡が立地

「ほっとやまはく」
タイム④① 

歴史知る注目展

ます。県内から出土した考古資料のうち優品を一堂に集めたもので、山口県の歴史を知る上で注目される企画展であり、大きな期待が集まります。ここに出品された資料は、遺跡の発掘調査によって発見されたものがほとんどですが、皆さんは県内にどれだけ遺跡があるかご存じでしょうか。

発掘調査の意義

さて、このような地下にある遺跡ですが、開発などにより影響を受ける場合には発掘調査が実施されます。掘り出された生活の跡や使用した道具



県が作成した「山口県遺跡地図」によると、遺跡（埋蔵文化財包蔵地）

は県内に約3200カ所が確認されています。開発に伴う試掘調査で新たに発見されることもあり、16年度統計からは約120カ所増加しました。ちなみに全国では約47万2000カ所（21年度文化庁統計）が確認されています。

では、県内の遺跡数を

では、県内の遺跡数を市町別でみてみましょう（山口県遺跡地図データを基に筆者調べ）。最も遺跡数が多いのは下関市で652カ所、次に山口市525カ所、美祿市291カ所と続きます。いずれも市域が広域であることから平野部が多く、県

からは、当時の人々の暮らしぶりを目の当たりにすることができます。そのため地域の歴史を考える上で良好な資料として、詳細な記録を作成し、後世に伝えることが発掘調査の目的です。今回の「やまぐち大考古博」で

やまはく×埋文センター

を代表する遺跡が立地し、当時の拠点となった場所が多いことなどが、遺跡の多さにつながっているとみられます。

を代表する遺跡が立地し、当時の拠点となった場所が多いことなどが、遺跡の多さにつながっているとみられます。

分布率1位は田布施町

陸海の交通拠点

各市町の面積と遺跡数の関係を比較します。面積に対して最も遺跡の分布が多いのは、田布施町の4・0です。単純にい

うと¹平方呎に4力所の遺跡が存在することになります。その次は平生町の1・3で、続いて柳井市の1・2となります。これからみると田布施町に遺跡が集中していることがよく分かります。瀬戸内沿いのなだらかな地形と温暖な気候、古来から海上、陸上における交通の拠点となる位置などの好条件があったことを物語っています。



がらくたも宝？

ところで民話「花咲かじいさん」に登場するボチは、小判だけでなく、瓦やお茶わんのかげらなどを地下から見つけ出しました。これらはがらくたではありませんが、一つ一つの破片は、当時の人々の生活を明らかにするもので、新たな発見をもたらす可能性があります。

一片の土器も慎重に

そついつた意味では、
らくたもお宝の山であ
り、ポチは良好な遺跡を
見つけたのかもしれない。
ん。ポチがいれば「こほ
れワンワン」でお宝を簡
単に見つけ出すことがで

山口県立山口博物館
TEL 083-922-0294
月曜休館（祝日
の場合は翌日）。
最新情報はホー
ムページで



きるかもしれませんが、地道な発掘調査の過程を経て慎重に掘り出した一片の土器からも、当時の人々の生活や考え方までも推察することができると思います。発掘調査を担当する者は優品だけでなく、一片の土器にも注意を払いながら、きょうも遺跡を掘っています。

谷口哲一（県埋蔵文化財センター調査第一課長）

▽次回は7月5日です。